



財団法人柳田國男・松岡家
顕彰会記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原 1038
の12
電話：0790-22-1000

第3回「民俗社広場まつり」

4月29日(水)「昭和の日」、辻川山公園周辺で第3回「民俗社広場まつり」を開催します。

大庄屋三木家住宅の開放や神崎郡歴史民俗資料館での恐竜化石(レプリカ)展示、ミニイベント(南京玉すだれ等)、模擬店など、楽しいイベントを計画中です。
ぜひ、ご来場ください。
問い合わせは
福崎町社会教育課まで



記念館では
松岡映丘画稿展開催

柳田國男の末弟、松岡映丘の画稿展を記念館2階講義室で開催します。

松岡映丘は、東京美術学校日本画科を首席で卒業し、生涯を大和絵の復興に捧げました。

代表作に「右大臣実朝」「宇治の宮の姫君たち」などがあり、当記念館は千点以上の画稿を収蔵しています。



「右大臣実朝」の画稿(1932年)

中国生まれじゃなくて
雪国生まれです

「アさて、アさて」の掛け声でおなじみの大道芸「南京玉すだれ」。「南京」という語がついているので、中国生まれかと思いがちですが、実は生粋の日本生まれです。

日本南京玉すだれ協会によると、その発祥地は、富山県の白山宮で、民謡「こきりこ」に使用されている「ささら」(編竹)が原型だそうです。

では、なぜ名前に「南京」が付いているかという、江戸時代、「南京」は大変ありがたがる風潮があったからだそうです。
都会に憧れる
庶民心理を見事
についた命名ですね。



くによはん覚書

団子について

お花見の季節ですね。せっかくなのお花見なのに、花よりも食べ物に気持ちは向いてしまうことを「花より団子」といいますね。この場合の「花」は「桜」を指すのでしようが、あえて「花」を限定していません。それに対して、「団子」はなぜ固有名詞なのでしょう。

柳田國男は団子について、「日本語として発音が珍しい為、新語として流行した為、全国に行はれるに至ったと思ふ」(餅と団子)、『日本民俗学講習会報』(第八号)と述べています。つまり、「団子」が流行語だった時代があるようです。珍しい言葉だから、諺にも取り入れたのかもしれないですね。

では、この諺を現代風に言い換えれば、「花よりマカロン」でしょうか。



3月15日イベント報告

3月15日のイベントの模様を「報告」します。

「柳田國男の『かたつむりの話』」
河南堂珍元齋
講演



軽妙な語り口の講演と、かたつむり男がくりひろげる寸劇で会場は笑いの渦に包まれました。

講演
「アホ・バカ方言が描く美しい円」
松本修(朝日放送)



柳田國男の「方言周縁論」を身近な言葉の例でご説明いただき、みなさん、感心しきりでした。
セミナー
「カタツムリをさがそう」
辻川山周辺で調査したところ、ハリママイマイとウスカワマイマイが発見されました。



財団法人柳田國男・松岡家顕彰会記念館

ご利用案内

【開館時間】
午前9時～午後4時30分

【休館日】
月曜日・祝日の翌日、12月28日、1月4日

【入館料】
大人200円(団体割引は学生150円、20名以上) 小人100円

会員募集中!
会員の方は更新をお願いします。